

すてきな写真

「ここが東川・・・。」

ひろこはバスから降りると、一面に広がる田んぼに目を向けました。強い日差しが、緑色の稲にぎらぎらと照りつけています。

ひろこは大阪から、飛行機で北海道にやってきました。ひろこの高校の写真部が「写真甲子園」に出場するのです。

ここ東川町は、一九八五年に「写真の町宣言」を行い、一九九四年には高校生たちが写真の技をきそい合う、「写真甲子園」が生まれました。それは、全国の写真を愛する高校生たちのあこがれの大会です。ひろこたちのチームは予選を勝ちぬぎ、やっと、この東川町で行われる本戦にたどり着いたのです。

「他の学校に負けないよう、いい写真を撮りたい！」

ひろこは辺りを見回すと、こぶしをぐっとにぎりしめました。

ひろこが東川町にいられる期間は一週間。その間に、本戦で出す写真を撮らなければなりません。ひろこは暑い中、町中を歩き回りました。

町にはすてきな風景が広がっています。太陽に照らされ光る大雪山連峰。

あざやかな緑でうめつくされたキトウシ山。畑は、枝豆やジャガイモの緑色の葉でうめつくされ、風にゆれています。

「わあ…なんてすばらしい景色！」

ひろこは夢中でシャッターを切りました。この東川であれば、どこを撮ってもすばらしい写真に





なりそうです。二日目も三日目も、ひろこはたくさん、素晴らしい景色の写真を撮りました。

ですがひろこは、だんだん、何か足りないような気がしてきました。

「わたしが本当に撮りたいのは、これだろうか……。」

夜になりました。高校生たちは、町内のお宅たくにホームステイをさせてもらっています。ひろこも、お世話になっている山田さんの家にもどりました。

「ひろこちゃん、いい写真は撮れた？」

山田さんが夕飯ゆうはんのしたくをしながら、ひろこに声をかけました。

「ええ、まあ……。」

ひろこは、山田さんが作ってくれた肉じゃがをほおびりながら答えました。うん、いい写真がたくさん撮れたよ。でもね、何か足りないような気がするの……。

ひろこの写真を、チームメイトがほめてくれます。真っ赤な夕陽ゆうひにてらされた旭岳や、風に吹ふかれているシャクナゲ。自分でも、いい写真が撮れたと自信じしんがあります。ですが、ひろこには

「わたしが撮りたかったのは、本当にこれだろうか？」

と、何か心に引っかかるものがあつたのです。

次の日、ひろこは農家の人におねがいして、農作業の手伝いをするにしました。東川町では農業がさかんです。自分でも作業を実さいに体験たいけんすることで、より生き生きとした写真が撮れるのではないかと考えたのです。

空からは太陽がてりつけます。少し動くだけでもあせがふき出ます。ひろこはなれない手つき

で、農家のおばさんといっしょに畑の雑草を抜いていました。

草はなかなかぬけず、力をこめると腕がいたくなります。腰をかがめてしゃがんでいるため、せ中も痛くなってきました。ああ、つらい。疲れた……。

その時です。

「おつかれ様、ひろちゃん。大変だったでしょ。」

おばさんがつこり笑って、ひろこに声をかけました。そのしゅんかんひろこは、目の前がぱあっと、明るくなったような気がしました。

ひろこは、暑いなあ、きついなあ、と苦しいことにばかりを気持ちが向いていました。ですが、おばさんからかけられたたった一言のあいさつで、心の中にさわやかな風が吹いてきたような気持ちになったのです。

作業中にも、道を歩く人、走り回る小学生、近所の人々が次々とそばを通ります。どの人も、ひろこたちに「こんにちは。」「おつかれさまです。」などと声をかけていきます。その度に、ひろこはなんとも言えず心地よい、すがすがしい気分になるのです。

「うれしい。たった一言が、人をこんなにも幸せにするなんて。」

そういえば、ひろこはこれまでに、だれかと言葉やあいさつを交わすたびに自分の気持ちが明るくなったことを思い出しました。こんにちは、おかえり、ありがとう。そして、そこから生まれたたくさんの笑顔。

この笑顔をもっと見たい！この笑顔を撮りたい！

それからひろこは、自分から進んで町の人々にあいさつをし、そこから生まれた笑顔を、夢中で写真におさめました。

夜、ひろこは昼間撮った写真をプリントしました。どれもすてきな顔ばかり。でもそれらは、ただ人が笑っているだけの写真ではありません。あいさつを通して生まれた、人々との温かい心のつながりの写った、すてきな写真です。

「わたしが撮りたかったのは、これなんだ。なんてすてきな写真。」

ひろこは、むねがいっぱいになりました。

大人になったひろこは、東川町でくらしています。もっとこの町の人々と心を通わせたい、そして、すてきな写真をこれからもたくさん撮り続けたい。

そんなひろこの目の前には、あの時と変わらず、まぶしい草木やゆう大な山々、そして、町の人々の笑顔がかがやいています。

